

「STI for SDGs」アワード 応募要領

「STI for SDGs」アワードは、科学技術イノベーション（STI）の力で社会課題を解決し、SDGs の達成に一層貢献することを目指して、JST が 2019 年度に創設した表彰制度です。

このアワードは、STI を使って社会課題を解決する優れた取組を見出して表彰し、それらをさらに発展させるとともに、国内において同様の課題を抱えている地域でも広く活用されることで、SDGs の達成に貢献することを目指しています。

STI という言葉の響きから、最新技術・先端技術を使った取組を想像されるかもしれませんが、本アワードでは、科学技術の先進性やレベルだけを重視しているわけではありません。既に社会に流通している既存の技術をどのように工夫して活用しているのか、その取組によって 2030 年に向けて社会をどう変えていきたいと考えているのか、国内外への展開の可能性など幅広い観点での審査を行います。（※：評価項目参照）応募に関する詳細は、下記をご参照ください。

1. 募集対象

科学技術イノベーション（Science, Technology and Innovation : STI）を用いて社会課題を解決することにより SDGs の達成を目指す、国内における優れた取組を対象とします。

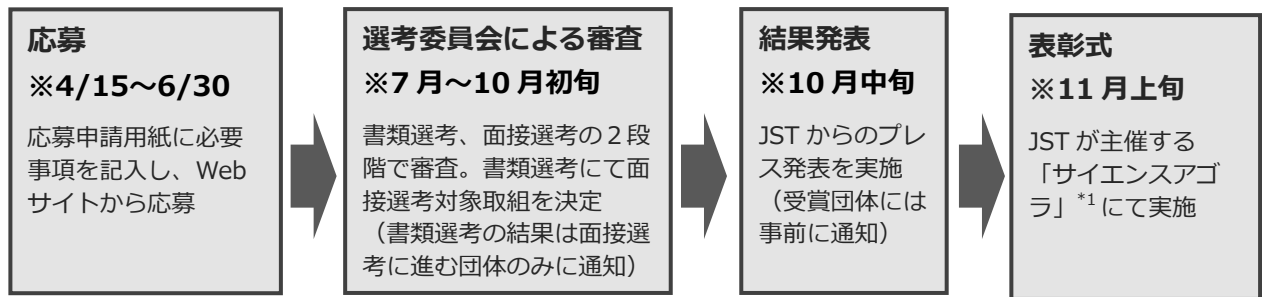
STI については、分野、用途、新規性、技術水準等の要件を設けません。広く国内外へ展開ができるような取組を対象とします。

2. 応募について

1) 応募要件

- ・ STI を用いて社会課題を解決することにより SDGs の達成を目指す、地方自治体、民間企業、大学等（国公立大学、高等専門学校、公設試験研究機関、国立研究開発法人等）、公益法人・NPO等の非営利法人、教育機関（高等学校、中学校等）、自治会やサークル、市民ネットワーク等の団体による、日本国内における取組であること。
- ・ 応募時点において、取組が計画や研究段階ではなく、社会課題解決のための具体的な活動実績を持つものであること。
- ・ 自薦での応募であること。

2) 応募から表彰までの流れ



*1：サイエンスアゴラについては、以下サイトを参照ください。

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>

3) 応募期間

令和3年4月15日（木）～6月30日（水）

4) 応募方法

本内容をよくご確認のうえ、本アワードのホームページに掲載の申請用紙に必要な事項を記入し、「応募サイト」からご応募ください。申請用紙の記入に当たっては、用紙付属の「記入上の注意事項」も参照ください。

※応募要領等掲載ページ（2021年度「STI for SDGs」アワード 応募について）：

https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/sdgs-award/2021/boshu_award_2021.html

※応募サイト：<https://form.jst.go.jp/enquetes/award-2021>

3. 表彰について

選考委員会による審査を実施のうえ、以下の受賞取組を決定します。

・文部科学大臣賞（1点）

最優秀賞として1件の取組を選出します。

・科学技術振興機構理事長賞（1点）

文部科学大臣賞に次いで優れた取組の中でも、STIの活用において特に優れている1件の取組を選出します。

・優秀賞（4点程度）

文部科学大臣賞に次いで優れている4件程度の取組を選出します。

・次世代賞（3点程度）

大学生、高校生等の若い世代の方が主体となって活動している優れた取組3件程度を選出します。但し、その他の賞にふさわしいと判断された場合は、次世代賞以外の賞に選出する場合があります。

※ 賞の名称、種類、点数などは変更になる場合があります。

4. 選考について

1) 選考方法

選考は、以下の通り選考委員会における書類選考と面接選考の2段階にて実施します。（選考委員会委員一覧は別紙1参照）

- ・応募いただいた取組について書類選考を実施し、面接選考に進む取組を決定します。
- ・面接選考は以下の日程にて実施します。**面接の時間、順番等については、結果通知の際に事務局よりご連絡いたします。必ず指定の日程にてご出席ください。**

日程： 9月中～下旬〔予定〕 ※1団体につき30分程度を予定

形式： オンライン〔予定〕 ※形式については今後変更となる場合があります。

- ・面接選考の際は、応募時の申請書とは別にプレゼンテーション資料を提出いただきます。
- ・面接選考の結果により、表彰対象となる取組を決定します。
- ・評価は包摂性、統合性、科学技術イノベーションの活用、革新性・独創性など、8つの項目を元を実施します（評価項目詳細は別紙2参照）。

2) 選考結果の通知

- ・書類選考の結果、面接選考に進まれる取組については、8月末までに代表者の方にご連絡いたします。面接選考に進まれない取組についてはご連絡を行いませんので、予めご了承ください。
- ・面接選考の結果は、10月初旬頃に面接に参加された全団体の代表者の方にご連絡いたします。
- ・選考に関する照会は受け付けません。

5. 表彰式および、その後の受賞取組の周知について

- ・表彰式は、11月上旬に開催する「サイエンスアゴラ」内での実施を予定しています。詳細についてはホームページ等でお知らせしますが、受賞された団体の皆様には、表彰式の場にて、ご自身の取組紹介を行っていただく予定です。
- ・受賞された団体の皆様に対しては、その取組の素晴らしさと、国内外での活用を促す目的で、各種メディアでの取組のご紹介機会や、イベント・セミナーにおける出展、ご登壇機会などをご紹介します。それに伴い、取材や各種資料等のご提供につきご協力をお願いする場合があります。いずれも任意のものとなりますが、本アワードが目指す好事例の広範な展開のため、是非ご協力をお願いいたします。具体的な内容は受賞後に随時ご案内しますが、施策例は、下記の「受賞後の取組周知策の例」を参照ください。
- ・受賞には至らなかった場合でも、選考過程で一定の評価を得た取組については、JSTの情報発信サイト等でご紹介することがあります。

＜受賞後の取組周知策の例＞

受賞された取組については、以下のように、各種セミナーやイベントへのご登壇機会、活動連携のためのパートナーとの出会いの機会などをご紹介する予定です。活動の周知や発展のためにご活用ください。（下記は一例であり、状況により内容が変わる場合があります）

- ・サイエンスアゴラでの表彰式におけるご自身の取組紹介の実施
- ・JST が主催・共催・関係するイベントやセミナー等への展示参加、ご登壇
（2020 年度実績例：エコプロでの展示およびセミナー登壇 [日経新聞社主催]、ジャパン SDGs アクションフェスティバル登壇 [ジャパン SDGs アクション推進協議会主催]、その他 JST が主催・関連するシンポジウム等での登壇 など）
- ・取組の発展につながる連携パートナーとのマッチング支援
- ・Science Portal, SCENARIO など、JST が運営する Web サイトや SNS での取組ご紹介
- ・取組紹介のための動画制作（JST の Web サイトなどでリンクフリーにて公開）
など

- ・応募者に、応募に係る虚偽記載、法令違反の容疑により逮捕され又は逮捕を経ないで公訴を提起された場合等、不正又は不誠実な行為があった場合は、表彰の対象としないことがあります。

＜お問合せ先＞

お問合せは、以下のアワード事務局までお願いいたします。

国立研究開発法人 科学技術振興機構 「科学と社会」推進部

E-mail : sdgs-award@jst.go.jp

■ 主催： 国立研究開発法人科学技術振興機構

■ 後援： 文部科学省

別紙 1 : 選考委員会 委員一覧

(敬称略, 委員 : 50 音順)

役割	氏名	所属・役職
委員長	蟹江 憲史	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授
委員	上田 壮一	一般社団法人 Think the Earth 理事
委員	小原 愛	一般社団法人 Japan Innovation Network ディレクター
委員	白木澤 佳子	国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事
委員	須崎 彩斗	株式会社 三菱総合研究所 未来共創本部 本部長
委員	新田 英理子	一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク (SDGs ジャパン) 事務局長

別紙 2 : 評価項目詳細

No.	項目	視点
1	包摂性	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の「誰一人取り残さない」という理念に沿った取組であるか。 ・ 人権の尊重や多様性の観点を勘案した取組であるか。
2	統合性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単一の社会課題、SDGs 目標だけでなく、複数の社会課題の解決、SDGs 目標の達成を目指す、統合的解決の視点を持った取組であるか。
3	科学技術イノベーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象となる社会課題に対して、科学技術イノベーションが重要な役割を担っている取組であるか。
4	革新性、独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題の解決手段や着眼点にオリジナリティのある取組であるか。
5	展開性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決に向けた取組に普遍性があり、他地域への水平展開が可能な取組であるか。
6	継続性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題の解決が一時的なものではなく、持続的な解決が図られる取組であるか。
7	マルチステークホルダー参加型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題の当事者が主体的に参加している取組であるか。 ・ 多様なステークホルダーが参画し、それぞれの英知を結集した取組であるか。
8	ストーリー性	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs の達成、または社会課題の解決に向けたストーリーが明確な取組であるか。